

〔第130回銀行業務検定試験〕

「融資管理3級」団体最優秀賞受賞

株式会社日本政策金融公庫

～「政策」と事業に取り組む方々を“繋ぐ”～

今回は、去る平成27年3月1日(日)に実施された第130回銀行業務検定試験「融資管理3級」において団体最優秀賞を受賞されました、株式会社日本政策金融公庫へお伺いしました。

日本政策金融公庫(略称:日本公庫)は、平成20年10月に発足した、3公庫(国民生活金融公庫、農林漁業金融公庫、中小企業金融公庫)を前身とする政策金融機関です。民間金融機関の補完を旨として、国民一般、中小企業者および農林水産業者の資金調達を支援するための金融機能等を担っています。

今回、快く取材に応じてくださいましたのは、国民生活事業本部管理企画部長の高梨晴雄さん、同部企画グループリーダーの中村靖さん、同グループリーダー代理の園田正博さん、小川祥子さんです。

●「融資管理3級」の受験について

第130回銀行業務検定試験「融資管理3級」において、合格者数53名、合格率80.30%、平均点68.45点の成績で団体最優秀賞を受賞されました。

はじめに、受験の経緯について伺いました。

「日本公庫は、運転資金・設備資金等の事業用資金から個人の教育資金まで幅広い資金を取り扱っており、お客さまのニーズに適切に応えるため、職員には幅広い知識や経験が求められます。また、債権管理に関する業務については、他の業務に比べて担当する人員が少なく、経験を積んだベテラン職員に頼ってきました。そうしたベテラン職員が有するノウハウの伝承を含め、若手の職員をどのように育成していくかということが課題だと考えていました」(中村さん)

「そうしたなか、職員の人材育成の一環として、試験学習を通じて知識の習得に努めてもらいたいこと、職員自らが債権管理に関する知識をどの程度習得したか客観的な指標により把握することが有益であること等の理由から、検定試験の受験を推奨することとしました。債権管理に関するさまざまな検定試験を検討したところ、日本公庫の実務に即したものであったことから、「融資管理3級」を推奨することが決まりました」(高梨さん)とお話くださいました。

●団体賞受賞について

今回の受賞について感想を伺ったところ、「今回初めて「融資管理3級」の受験を職員に推奨したわけですが、数ある受験団体のなかから団体最優秀賞をいただけたことに、驚くとともに光栄に感じています。これも職員の努力の成果だとうれしく思います。また、個人賞でも7名の職員が優秀賞を受賞したことは、単に合格を目指すだけでなく、職員それぞれが知識の習得に非常によく取り組んでくれた結果だと思います。このような成果が出たことは、職員のモチベーション向上にもつながっています」(高梨さん)とのことでした。

また、「もともとは、若手職員を対象に受験を推奨していたのですが、若手が受けるなら自分も受験しようというベテラン職員もあり、結果的に幅広い層が受験しました。ベテラン職員も、受験に向けて体系的に学習することで、業務で身に付けた知識を整理することができたようです。若手とベテランがお互いを高め合うような相乗効果もあり、今回の結果につながったと感じています」(園田さん)とおっしゃっていました。

今回は小川さんも受験されており、「今年の3月まで、支店で債権管理の業務に2年間携わってきましたが、正確な知識が身に付いているか確認する良い機会となりました。受験したことで、お客さまからのご相談に対する判断能力が、速さと質の両方の面で向上したと感じています」とお話くださいました。

●研修体系について

研修体系について伺ったところ、「債権管理に関する研修については、若手から中堅、ベテラン層まで、階層に応じて実施しています。「融資管理3級」の受験は、債権管理の研修プランのうち、自己啓発の一環として、各自が研修で学んだことの習得度合いを確認するという位置づけです。通信講座等も活用しており、経済法令研究会の「融資管理実務コース」を推奨講座のひとつとしています」(高梨さん)とのことでした。

なお、若手職員の研修の中心は現場でのOJTとのことで、OJTの充実に向けて、さまざまな取組みをされているそうです。たとえば、OJTで習得すべき事項を100項目に整理・類型化し、その習得状況を記すシートを用いて計画的に若手職員の指導を行っているとお聞きしました。

●人材育成について

人材育成について伺ったところ、「日本公庫は、さまざまな業務を行っており、幅広い知識が求められます。職員一人ひとりが、政策金融を担うための資質・能力および専門性を高める必要があります。国の政策にもとづき、新たな事業の創出から事業の再生等まで、政策金融に求められる各種のニーズに適時適切に対応できる人材を育成していきたいと考えています」(中村さん)とのことでした。

また、「総裁がいつも申し上げているのですが、職員には、政策金融機関としての矜持をもって業務に取り組み、『政策』と事業に取り組む方々を“繋ぐ”という使命のもと、民間金融機関を補完するという日本公庫が担う役割を理解し、お客さま目線で、お客さまが求めていることを察知できるよう主体的に行動することが大切だと考えます」(高梨さん)とお話くださいました。

(お忙しいなか、取材に真摯にご対応いただきました高梨さん、中村さん、園田さん、小川さんには心から感謝申し上げます)



▲日本政策金融公庫 本店



▲国民生活事業本部管理企画部長 高梨晴雄さん(中央左)、企画グループリーダー中村靖さん(左)、企画グループリーダー代理 園田正博さん(中央右)、企画グループリーダー代理 小川祥子さん(右)